

6/5  
(月)

## 工事現場で防空壕発見 長島町の歴史にふれる

6月5日、町役場開発総合センター裏の工事現場から防空壕が発見されました。

現役場庁舎建設地の歴史は古く、明暦3年（西暦1657年）に地頭仮屋が建設され、その後は、戸長役場、村役場、鷹巣小学校、長島高校東分校が置かれ、現在は開発総合センターとなっています。

発見された防空壕は、「地頭仮屋跡とその変遷の揭示板（町開発総合センター）」と歴史を照らし合わせると、鷹巣小学校が設置された時期に作られたと考えられます。

内部は横に約20㍍、高さ約1.5㍍で大人が腰をかがめて通れる程度。この横穴からさらに奥へ進むと2つの穴が掘られ、戦時中の児童らが避難していたことが想起されます。

実際の工事現場



防空壕は、小学校の校庭の崩落防止のため石垣工事が行われ、埋め戻されました。

防空壕の内部



「地頭仮屋跡とその変遷」の揭示板



※地頭仮屋 薩摩藩が、領内支配のため領内をいくつかの区域に分割して設置したもの。

6/8  
(木)

## 川床小学校芸術鑑賞会 笑顔でバレエに挑戦

6月8日、川床小学校（黒川周一校長・103人）体育館で貞松・浜田バレエ団による芸術鑑賞会を開催しました。

同バレエ団は、文化庁の学校巡回公演事業を活用し、子どもたちの創造力やコミュニケーション能力を養うことを目的として、全国の小中学校で公演を行っています。

今回の鑑賞会では同小学校の児童数人も出演。登壇した古田桃杏さん（5年）は「バレエ団からは笑顔が大事と教わっていた。はじめは緊張したが、踊っているうちに楽しくなり自然と笑顔があふれ

一緒に出演する児童ら



た」と満面の笑みで話しました。

貞松融団長は「長島の子どもたちの反応がすごくよかった。歓声が上がるとバレエ団の励みになる」と述べました。